

ニュース

# 生まれ変わる街の話題をカメラレポート

## 熊本創造

# 熊本の新たな都市づくり着々



▲2018（平成30）年頃の完成を目指し工事が進む鹿児島本線の連続立体交差工事。完成後は東西方向の移動もスムーズになる（熊本市西区花園1丁目で）

超高齢化や人口減少時代を見据えて、熊本市では公共交通を軸としたコンパクトシティづくりに取り組む。またコンベンション誘致を中心とした都市戦略を打ち出すと共に、熊本都市圏各地では道路インフラの整備も着々と進んでいる。熊本市の都市戦略や熊本都市圏で進む道路インフラなどの動きをカメラで追った。

### 公共交通で快適なコンパクトシティへ

熊本市では超高齢化、人口減少時代を見据えた将来の都市構造を、公共交通機関を軸としたコンパクトシティへとベクトルを定めた。2012年に熊本市が掲げた主要施策のひとつが「公共交通再生元年」。高齢化でマイカーを運転できない高齢者が増え、公共交通に対するニーズが高まる一方、人口減少で公共交通の利用者は減少する中でマイカー移動から公共交通機関による移動への転換を目指す。市では、鹿児島本線の連続立体交差事業と熊本交通センター（桜町）を公共交通機関をつなぐメーンターミナルとし、新たに熊本駅にサブターミナル機能を持たせる。



▲鹿児島本線「近見新駅」（仮称）の新設が計画されている南区島町、上の郷、刈草の県農業試験場跡地一帯。熊本市では16年の開業を目指している



▶LRTとしての動力性能を持つ熊本市電車両、サイドリザーブション、バリアフリー化された電停に緑化された軌道敷



▲昨年10月、熊本市で開かれた「第3回LRT都市サミット」で、路面電車のLRT化などを宣言する幸山熊本市長（中央）ら参加者

## コンベンション都市戦略始動

### 熊本の「顔づくり」と機能で重要性増す桜町・花畑再開発

「都市戦略」という分野では、コンベンション誘致を目指した「明確な都市戦略」が動き始めた。熊本県や熊本市などは昨年10月、大規模な学会やイベントの誘致、運営に協力して取り組む「くまもとMICE誘致推進機構」を設立。総会で発起人代表の幸山政史市長は、「熊本の特性とポテンシャルを磨き、発信し、MICE（各種会議や学会、イベントなど）の開催地として『選ばれる都市』を目指す」と力を込めた。熊本市では九州産業交通グループが桜町の交通センター一帯で計画している再開発事業に、コンベンション施設の建設を提案。MICE誘致のハード整備を目指す。2018（平成30）年の完成を目指して、熊本市は九州産交グループと共同作業を進めることになる。熊本市百年の計」とも言える桜町再開発の今後が大いに注目される。



▲熊本市が11月に発表した熊本市産業文化会館跡地が多目的公園となっている桜町・花畑地区の完成予想イメージ。桜町再開発施設の左側手前の建物が熊本市のコンベンション施設



▲昨年10月28日、熊本県民テレビの開局30周年記念イベントで賑わいを見せる桜町、花畑地区間の熊本市道（県民百貨店前）。熊本市では歩行者空間（歩行者天国）化した「シンボルプロムナード」で日常的に賑わい創出を目指す



▶昨年10月4日、「くまもとMICE誘致推進機構」設立総会で挨拶する役員。産官学一体のコンベンション誘致が動き出した

▲桜町再開発事業で2018年の完成を目指すと会見する矢田素史・九州産業交通HD社長（右）と、鳥井一治・熊本桜町再開発準備社長



▲県民百貨店8階から見た熊本城へ伸びる「シンボルプロムナード」